

スカウトはパレードをやるのが目的でない。
しかし、もしパレードをやることがあれば、他のどの団体よりスマートである筈である。



第6回日本ジャンボリー
期 間 昭和49年8月1日(土)～
8月6日(日) 5泊6日
ところ 北海道千歳市千歳原
テーマ 大 自 然
参加者 25,000 名



日本ボーイスカウト浜松地区協議会 昭和49年度総会終る

昭和49年4月27日 法林寺に於て

日本ボーイスカウト浜松地区協議会の昭和49年度総会は昭和49年4月27日、午後6時浜松市成子町法林寺客殿に於て地区役員及び各団の代表者約60名参加して真剣な審議が行われ、午後9時半無事終了し、昭和49年度の地区活動のスタートは切っておとされた次第である。

牧野事務長の司令により、まず最初内田地区委員長から「各位日頃いそがしいなかを協力してもらって感謝に堪えない。本年は第6回日本ジャンボリーを迎える年にも当るので益々活動して頂きたい」とあいさつがあつて、次いで昭和48年度事業報告が行われた。(別表参照)

また各運営委員会の報告は、財政—金森、組織拡張—杉山、指導者養成—大橋、進歩—中島、野営行事—竹村の順序で各運営委員長の報告が行われた。

会計の後藤氏よりは昭和48年度決算報告があり、これを承認、昭和49年度事業計画、予算についても原案通り、可決承認された。

引きつづいて「スカウト浜松」の決算報告並びに予算審議に入ったが、本年は特に印刷代の値上りを考慮して、誌代も年間1部 130円より 200円に値上げする

ことになった。

役員改選に当っては、一部を除いては殆んど留任という形で決定をみて、昭和49年度の地区運営は発足することになった。

その他「来年のスキー計画の説明」、「国旗の正しいあげ方・配布の件」、「隊野営・舎営の報告を伊豆の事故の反省に依り確実に守ってもらいたいこと」、「進級の状況一覧表」等についての説明または要望が行われた。

最後に内田県コミより「浜松地区は運営と計画とが模範的である。ただ注意してほしいことは野営報告と進級制度についてやってないところは確実に守ってほしい。県連も今大きな曲り角にきている進歩委員会より指摘された様にたしか不足と思う。

ボーイ・シニアは60年前と同じでありカブのみが新しいやり方であり、ジレンマを感じる。

カブは入隊し簡単にリスからユニフォームは着れるが、ボーイは仮入隊して初級をとってからユニフォームを着るということになっている。

今、グリーンカブ、グリーンボーイ、グリ

ンシニアにする考え方の案もある。

進歩制度を課目別、年令別に見直す必要もある。

技能章から特殊章へという様にいろいろ研究して制度そのものが生れ変わろうとしているが、これは半年位日連の当初の計画より遅れそうである。

また本年の県大会も3ヶ所でやる様になるであろう。県連の勢力も実質1万800名になりつつある。文部省も50年にはスカウト人口を30万名にしようとしている様である。そして特技技能を70%、学問を30%位の割で教育する様な考え方のようである。ただし今のB・Sの1級では技能的には10%位であろうと云われている。

文部省も今の奥野さんになられてからB・Sの活動や内容が認められつゝあるようであるから、大いにしっかりやらなければならないと思う。

浜松地区は素晴らしい。「今後共活躍をお願いしたい」といった要旨のあいさつがあり総会のすべてのスケジュールを終えることが出来た。

総会の議案の資料等については別表の通りであるから御参考にせられたい。

昭和48年度事業報告書

事業項目	期 日	摘 要
デンチーフ研修会	4月7日～8日	浜松市青少年の家 67名参加
デンマザー研修会	15日	東部公民館 中央ブロック 34名参加
地 区 総 会	27日	法 林 寺
デンマザー研修会	29日	可美小学校 南部ブロック 34名参加
浜松まつり駐車場奉仕	5月3日～5日	中田島 風揚場
デンマザー研修会	13日	浜北森林公園 浜北ブロック 17名参加
日連総会(全国会議)	19日～20日	東京富士銀行本店
デンマザー研修会	20日	住吉幼稚園 西部・引佐ブロック 47名参加
県 連 総 会	27日	静鉄健保会館
県大会(西部会場)	6月 10日	掛川市中央小学校 3,500名参加
地区リーダー研修野営	16日～17日	芝形野営場 35名参加
カブリーダー特技研修会	7月 20日	法 林 寺
合同野営	8月2日～5日	朝霧キャンプ場 254名参加 4日富士登山
県下シニヤードベンチャーキャンプ	4日～5日	朝霧キャンプ場 36名参加
シニヤード洋上訓練	15日～17日	三ヶ日町大崎海岸 24名参加
無線(ハム)講習会	28日～30日	浜松市青少年の家 55名参加
同 上	9月1日～2日	同 上
東海ブロック会議	10月20日～21日	津市(東海四県)
J O T A	20日～21日	浜北市 富士見平
地 区 大 会	28日	細江中学校講堂 細江公園一帯
シニヤードパーティー	12月 23日	楠 会 館
地区倉庫引渡式	30日	鴨江寺西広場 ライオンズクラブより
ソフトボール決勝戦	1月 27日	1位18団 2位14団 3位引佐2団 4位浜北2団・浜松4団(谷上グラウンドに於)
スキー訓練	2月9日～11日	B S 白樺 S S 白馬
団委員講習会	16日～17日	林業青年の家 34名参加
県連臨時総会	23日	県 民 会 館
日連全国会議	24日	東 京
班長訓練野営	3月21日～24日	浜川川宇連野営場 102名参加
B-P祭	2月 24日	各ブロック毎 中央一東小学校 南部一浅間小学校 西部一佐鳴湖公園 引佐一気賀小学校 浜北一各隊毎

○結 成 1件

浜北4団 C S 隊 (48.9.30)

○審 査

浜北4団 C S 隊 (48.9.9)

○説明会及び指導、会議等

- 可美1団説明会 6.2
- 浜松6団 6.5
- 浜北4団 8.23
- 11団10周年 8.14
- 1団20周年 6.5
- 19団5周年 9.16
- 12団10周年 12.23
- 市キャンプ指導 川宇連野営場他 6.14 6.20～24
- スズキ自動車青年部キャンプ指導 弁天 6.17
- 入野婦人学級キャンプ指導 芝形野営場 7.8
- G S 指導 森林公園 9.23
- 看護学院生キャンプ指導 芝形野営場 9.8～9
- つま恋視察(ヤマ発) 3.16

・県内需品部打合 県民会館 7.11

・観音少年自然の家オープン 6.15

○講習会、研修会

- 団委員講習会(49.2.16～17)林業青年の家
- C S 80期講習会(49.3.2～3)市青少年の家
- リーダー研修野営(48.6.16～17)芝形
- D M 研修会(48.4～5)各ブロック毎
- 班長訓練野営(49.3.21～24)川宇連野営場
- 県シニア隊長研修会(48.4.28～29) 県青少年センター
- 県シニア試行隊説明会及び研修 (48.11.17～18)県青少年センター

○WB実修所、研修所

- ㊦ B S コース 原口(15) 那須野営場
C S コース 井ノ口(1) 西野(可1) 那須野営場
- ㊦ B S コース 中島(6) 新井(16) 原田、竹村(20) 柴田(10) 朝霧野外活動センター
- C S コース 佐藤(1) 永田(7) 野中(北3) 浜松青少年の家
- C S コース 金原(21)沼津市立少年 自然の家

○海外派遣

- スウェーデンナショナルキャンプ (48.7.20～8.27)

鶴見一哲(浜松12 S S)

- 第8回アメリカジャンボリー (48.7.28～8.27)

鈴木幸夫(18. S S) 袴田祐二(15. S S)

青島 茂(15. S S) 塩谷 勲(20. B S)

鈴木正幸(10. S S)

- フィリッピン50周年ジャンボリー (48.12.20～49.1.4)

山下三郎(10. B S A L) 柴田真次(10. C S A L)

山下二郎(10. B S L) 福世正志(18. B S L)

小山真人(1. B S) 柴田真孝(1. S S)

鈴木孝実(1. S S) 飼沼丞二(4. S S)

龍口郷二(4. S S) 牧野勝哉(7. S S)

三輪文人(12. S S) 川端秀之(12. S S)

伊藤康隆(12. S S) 安富靖二(14. B S)

安富義人(14. S S) 原田秀彦(18. S S)

袴田隆成(20. B S) 加藤竹造(7. B S)

○表彰関係

県連有功章及び感謝章

有功章氏名	B S 役務	感謝章氏名
市 川 重 雄	中央審議会委員 16団育成会長 県連理事	夫人 市川嘉寿子
土 井 庸 一	21団B S 副長	夫人 土井 延子

日連有功章(かつこう章)

牧野 績 浜松地区事務長 4団S S 隊長

「スカウト浜松」48年度決算 及び49年度予算報告書

収 入 の 部					
項 目	48 年 度 決 算			49 年 度 予 算	
	予算	決算	備考	予算	備考
誌 代	227,500	230,100	@120円 1,770部	360,000	@200円 1,800部
広 告 料	62,000	89,000	@1500円	120,000	@2000円
未 収 金	7,500	7,500	47年度分		
地区財政 援助金	70,000	56,000		100,000	
雑 収 入	1,500	1,066	利子	1,500	
前 年 度 繰 越 金	10,815	10,815		37,276	
	379,315	394,481		618,776	

支 出 の 部					
項 目	48 年 度 決 算			49 年 度 予 算	
	予算	決算	備考	予算	備考
印 刷 費	324,000	350,000		525,000	
通 信 費	10,000	7,205		10,000	
事 務 費	5,000			5,000	
写真及び 原稿用紙代				20,000	
予 備 費	40,315			58,776	
次 年 度 繰 越 金		37,276			
	379,315	394,481		618,776	

昭和48年度 地区協議会会計決算報告書

日本ボーイスカウト浜松地区

科 目	予 算 額	収 入 額	備 考	科 目	予 算 額	収 入 額	備 考
繰 越 金	290,226	290,226		会 議 費	40,000	24,650	
立 替 金 収 入	80,500	114,400		印 刷 費	70,000	65,300	
県 連 登 録 料			4,000	事 務 費	40,000	52,930	
Tシャツ売捌代			110,400	通 信 費	80,000	45,205	
地区負担金	300,000	320,000	@5,000×64隊	登 録 費	6,000	0	
倉庫建設負担金	0	110,000	@5,000×22回	慶 弔 費	10,000	7,000	
大会参加費	303,000	351,700		分 担 金	2,000	2,200	
浜松地区大会			345,200 @3,000 団	備 品 費	330,000	389,670	
ジャンボリー			@200 個人	地区倉庫建設			297,710
オン、ソ、エアー			6,500 @ 500×13	ハム用通信機			87,460
研修参加費	421,000	539,800		そ の 他			未請求で 価格不明 4,500
D C 研 修 会	(67,000)		68,000 @1,000	旅 費	70,000	15,040	
D M 研 修 会	(24,000)		29,000 @ 200	研 修 費	590,000	655,587	
指導者野営	(30,000)		25,500 @ 500	D C 研 修 会	(75,000)		74,700
団委員研修会	(120,000)		99,300 @ 450	D M 研 修 会	(45,000)		39,490
班長訓練野営	(180,000)		318,000 @3,000	団委員研修会	(120,000)		136,143
寄 附 金	300,000	402,088	未納浜北3 6,000	指導者野営	(35,000)		20,138
			93,900 ロータリークラブ	W-B実研所補助	(45,000)		36,500
			150,000 ライオンズクラブ	班長訓練野営	(240,000)		343,616
			153,188 浜松まつり本部	隊長研修会			5,000
			5,000 地区委員長	行 事 費	435,000	439,530	
雑 収 入	10,000	26,700		合同キャンプ			11,940
			12,000 県連から印刷代	ジャンボリー			9,195
			14,700	オン、ソ、エアー			8,350
受 取 利 息	5,000	7,823		ソフトボール大会			11,990
委 託 金	65,000	65,000	浜松市教委指導者養成委託金	日の出遠拝式	(10,000)		398,055
仮 受 金		217,120	緑の羽根募金	浜松地区大会	(400,000)		0
				そ の 他	(25,000)		
				スカウト浜松援助金	(70,000)	56,000	
				雑 費	(1,726)	20,920	県連50周年記念予約金その他
				予 備 費	(30,000)	0	
収 入 合 計	1,774,726	2,444,857		支 出 合 計	1,774,726	1,774,032	

49年度へ繰越 収入支出差引残 670,825 円 (但し217,120円は緑の羽根募金仮受金)
別 途 積 立 金 241,929 円

上記のとおり会計決算を報告いたします。

昭和49年4月22日 会 計 後 藤 守 利

昭和49年度 事業計画

B S 浜 松 地 区

種別 月別	地 区 (全)	C S 関 係	B S 関 係	S S 関 係	県 連 ・ 日 連 関 係
4	27 地区総会 (法林寺) 1～20 緑の羽根募金				
5	勤労行事週間 (Bob-a-Job) テーマ “よりよい社会をめざして” 3～5 浜松まつり駐車場奉仕	25～26 D C 研修会 D M 研修会 (ブロック別)			18～19 全国会議 (愛知) 26 県連総会
6	リーダー研修野営 (芝形) (副長対象。尚、研修野営に不参加 の隊長及び成人リーダー)	(5月～6月中に実施する)			22～23 シニア (試行) 隊長研修会 県青少年センター 県大会 (東・中・西・別)
7	6～7 団員研修会		合同キャンボリー (ブロック別)		
8	1～6 第6回日本ジャンボリー 北海道千歳原 派遣員160名 GHQ野営区県連奉仕11名		合同キャンボリー (ブロック別)	23～25 洋上訓練 (ヨット・カヌー)	下旬 S S アドベンチャーキャンプ 朝霧野外活動センター
9					
10	10 J. O. T. A. 20 地区大会		ソフトボール大会予選 各ブロック別 (12月までに終了)		ボーイスカウト・ガールスカウト 東海ブロック指導者集会
11					
12				22 懇親パーティー 31 S S 記念登山およびキャンプ	
1	1 日出遠拝式 中田島砂丘		26 ソフトボール大会決勝	1 記念通信	
2	23 B・P 祭 (ブロック別)				
3			21～24 班長訓練野営 (第10期) スキー訓練	21～24 班長訓練野営 本部奉仕 スキー訓練	
その他	○全体リーダー研修会 (第2土曜日を中心として) 5月、11月、12月、3月の4回 ○研修旅行 (1泊2日) 成人リーダー対象 ○担当別研修 (カブ、ボーイ、シニア、ローバー別) 随時 ○ブロック別L研修 月1回 ○地区コミ関係 月1回 ○事務局関係打合 随時				

科 目	収 入 予 算 額	説 明	科 目	支 出 予 算 額	説 明
繰 越 金	453,705	昭和48年度繰越金	会 議 費	40,000	
地区負担金	422,500	@ 6,500×65隊	印 刷 費	90,000	
寄 附 金	550,000	ロータリークラブ 200,000	事 務 費	75,000	
		ライオンズクラブ 200,000	通 信 費	80,000	
		浜松まつり本部 150,000	登 録 費	6,000	浜松17 R S 分
補 助 金	200,000	第 6 回日本ジャンボリー浜松市補助金	慶 弔 費	10,000	
委 託 金	65,000	浜松市教委 指導者養成委託金	分 担 金	3,000	まちを住みよくする会会費ほか
未 収 金	6,000	浜北 3 団 班長野営参加費	備 品 費	300,000	但し48年度ロータリークラブ寄贈の、 通信機未払分を含む
雑 収 入	20,000		旅 費	55,000	第 6 回日本ジャンボリー関係旅費除く
受 取 利息	8,000		研 修 費	300,000	D・C研修会補助 25,000 D・M ッ 35,000 指導者研修野営補助 20,000 団委員研修会補助 40,000 班長訓練野営補助 100,000 W・B実 研1/2参加費等補助 80,000
			行 事 費	146,000	浜松地区大会補助 70,000 日の出遥拝式 25,000 ソフトボール大会 16,000 ジャンボリー オン・ジ・エアー補助 15,000 その他 S S ヨット X マスパーティー補助 20,000
			スカウト浜松援助金	100,000	
			運 営 委 員 会 費	90,000	@15,000× 6 委員会
			隊 長 研 究 会 費	75,000	C・B・S 別リーダー研究会 ・会場費ほか ・ブロック別 リーダー会補助@ 5,000× 5
			ジャンボリー関係費	300,000	地区内参加者 6 T H N・J 約 170 名に対する打合 せ会・荷物輸送・その他の補助
			雑 費	35,000	県連50周年誌寄贈分10冊追納金ほか
			予 備 費	20,205	
収 入 合 計	1,725,205		支 出 合 計	1,725,205	

上記のとおり提案いたします。

昭和49年4月22日
日本ボーイスカウト浜松地区委員会
財政委員長 金森 武

昭和49年度 指導者養成講習会開催計画
及びウッドバッジ研修所開催計画

期別	講 習 会	研 修 所	実 修 所
4	C・S 20～21 清水 B・S 27～29 三島	27～30 C・S 8期 御殿場青少年会館	
5	B・S 11～13 浜名		
6	C・S 1～2 北遠 B・S 8～10 靜岡	7～10 B・S 7期 朝霧野外活動センター	2～6 C・S 19期那須 9～15 B・S 31期那須
7	C・S 伊東		
8			
9	C・S 志太 B・S 御殿場, 小山	14～17 B・S 8期 朝霧野外活動センター	3～8 C・S 20期岡山 15～21 B・S 32期那須
10	C・S 12～13 磐田 B・S 島田	7～10 C・S 9期 浜松青少年の家	22～27 C・S 21期那須
11	C・S 駿東 B・S 22～24 浜松		1～7 B・S 33期岡山
12			
1			
2			
3			

- **日本ジャンボリー関係**
 4 / 15 第6回日本ジャンボリー納金並び打合せ 法林寺
 4 / 13 第1回県下派遣隊長打合せ会 静岡中央公民館
 5 / 25 第2回 ♪ 浜松地区派遣員代表
 7 / 21 派遣団・結団式兼激励会 ♪ 及び本部奉仕リーダー
 派遣団、準備訓練(各隊毎)
 派遣団、出発7月29日(月)
 (GHQ、野営区、県連本部奉仕7月29日以前)
- **地区関係会議**
 地 区 委 員 会 随時
 団委員長会議 ♪
 各種運営委員会 6委員会 ♪
 (財政・進歩・指導者養成・野営行事・組織拡張・健康安全)
- **県連関係会議**
 理 事 会 毎月第4土曜日
 コ ミ 関 係 ♪ 第1土曜日
 事 務 長 ♪ 第3土曜日
 各種運営委員会 随時
- **海外派遣**
 第14回スゴットランド国際パトロールジャンボレット
 (49.7.13—8.11)
 第1回フィジージャンボリー (49.8.25—9.10)
 第14回世界ジャンボリー国際スタッフ要員 (50.7.29—8.6)

種別 所属	うきぎ	しか	くま	余矢	銀矢	初	2	1	菊	準	注
浜松 1	10	18	13	41	201		11	6	8(B) 2(S)		67(B) 9(S)
4						30	12	9(B) 6(S)			39(B) 4(S)
6						8	5	10			32(B) 11(S)
7	47年 5	47年 12	〃 10	〃 25	〃 60	9	13	3			63(B) 6(S)
10	10	11	6	27	215	8 23	31	35			213(B) 3(S)
11							2-B 1 6-B 2				18(B 2)
12	15	9	15	37	205	10			3(S)		153(B) 21(S)
14						3		6	4(S)		54(B) 24(S)
15						9	4(S)	6(S)	4(S)		155(B) 27(S)
16	9	13	9	30	151	10(S)	6(S)				4(B)
18											13(B) 2(S)
19				40	172						62(B)
20		15	20			20	8	12			83(B)
21	9	15	9	32	200	1	1	4			29(B)
浜北 1						21	10	5			19(B)
2											
3											
4						7	12	1			10(B)
三好 1						5	8	11			66(B)
細江 1	10	7	14	30	85	13		6			11(B)
可美 1	10	18	14	32	108	11	4	7			27(B)
引佐 2						8	7				22(B)



指導者の諸君に告ぐ

浜松地区委員長 内田 時世

医学と医術としての医とは本質的に相違している。

医学は知識であり、医はそれを前提とした能力である。すなわち医は病気に関する学でもなければ又

病気の治療でもない。一言にしていえば医は病人の治療である。それは修得された学と経験とによって一人の人（医師）が他の一人の人（病人）を治療する一種の創造的、独創的行為であると考えられる。病人とは病気をもった単なる人体ではなく医師は単に病気を治す人体ではない。それは生きた社会精神的存在である人間と人間との交渉でなければならない。

医は一種の創造的、独創的行為であるといった所以である。具体的にいうならば同様の症状を呈する患者に対しても、教科書的画一的な治療でなく個々の患者の背景を考えた上で、それぞれに最も適した治療内容と指導をその医師はとることである。

病気という概念は存在する。しかし逆説的にいうならば病気は実在しない。病気とは無数の自然現象の中から医学によって抽象化された概念である。医学はこの病気をその対象としてい

る。しかし医は病人（病める人間）を対象とした治療である。すなわち医は具体的存在としての患者に接し治療することにある。

此の医をリーダーに、患者病人をスカウトに置きかえて見たらどうであろうか。又、治療を指導、スカウト教育とおきかえて見たらどうであろうか。スカウト教育でもリーダーはスカウトの個々の背景を考えた上で、それぞれに最も適した指導をすることが望ましいとされている。

その意味で、ベーデン・ポウエルは素晴らしい名医である。

私は私自身、諸君も名医でありたいと願うし、なりたいと望んでいる。しかし、それは至難のことであろう。（甚だ諸君にとっては失礼な言葉かもしれないが）私は良医になりたいと願っている。諸君も良医になってもらいたい。是非諸君も良きリーダーになってもらいたい。良医になること、良きリーダーになることは決して至難のことではあるまい。ボランティア活動の中で諸君の健闘を心から願っている。

海外派遣報告

GOLDEN JUBILEE JAM BOREE

第12団 S S 隊 川端 秀之

羽田空港のロビーは、ロマンチックでもあり、華やいだ気分満ちていた。関係者や家族に見送られて NW007 便に乗り込んだのは 12 月 25 日、クリスマスの夜だった。18 時 55 分羽田の滑走路の青いランプが流星の様に後に飛び去り、飛行機は空中に浮かんた。期せずして隊員達の中から未知の国への不安を消し去るかの様に歓声がドッとわいた。飛行機は一路東京の夜景を後に、寄港地の沖縄に向った。機内食は、すばらしかった前夜の寝不足と、出発準備の疲れか、うとうととした。「安全ベルトを御締め下さい」のアナウンスに目をさました。沖縄はひどい雨だった。9 時 50 分着、10 時 24 分離陸、再び飛行機は空中に浮かんた。しばらくして下界を見ると雲間から、光が点滅している。いよいよマニラだ。期待と喜びに胸が踊る。

時計を 1 時間遅らせて、ここからフィリッピンに時間を合わせる。空港では、深夜にかかわらず、現地のスカウト約 30 名の熱烈なる出迎の中一步一步タラップを踏みしめフィリッピンへの第一歩を印す時に、1973 年 12 月 25 日、22 時 30 分我が生涯にとって忘れ得ぬ感動の一瞬だ。空港での観迎式を終りフィリッピナスホテルに向った。夜だと云うのに生暖い風がほほに当り、南国に居ると云う実感をなお強く感じさせてくれた。ホテルで明日の説明を受けて異国の第一夜の夢を結んだ。

観光について

12 月 26 日ルネタ公園サンチャゴ要塞等を観光したが、キャンプ中、バクザーファンの川登りに行った。私の味わった事のない森林、川の美しさの中で一日遊んだ。

マッキリン山にて

野営地は、マニラ市内から約 60km くらいの所である。そこで日本派遣団は 8 隊に別れ、それぞれのキャンプ生活を開始した。現地の参加スカウトは、我々よりも年下のスカウトが多かった。時間にたいへんルーズであり、ジャンボリーらしい事は少しもできなかった。DU-50-BSP のアマチュア無線にも参加して初めての交信に胸がときめいた。十日間のキャンプ生活はなにかと不衛生になりがちであったので洗濯をしたり、シャワーをあげたりして衛生に気があったがそれでも他の班では、腹を悪くしてしまうスカウトも出ようすだった。さいわい我班は全員 10 日間なんの故障もなく過ごすことができた。キャンプ中は、肉や卵類が多く、米、パンなども配給された。肉がたく、どうにも思うようにとつきにくく、そのために我々炊事班が研究を重ねた結果、終わりのころには、班員からの文句も出なくなってきた。

1 月 5 日キャンプ地に弥栄をして 10 日間のキャンプ生活の幕を閉じた。

民泊にて

ルソン島南部の大都市マニラ港に望

みバツブ川をはさみ南北に広がる人口約 100 万の世界で最良の湾と称せられるマニラ湾に望み、東南アジア諸国の海上輸送の、中心地で拡大肥富なバンバンガ平野、リンガイアン平野を控えた、農地帯のマニラ市のリザール地区のコミッションナーの家であった。

家族構成は、三代に渡り、教職に携わる大人 7 人、子供 4 人の大家族であった。その夜、近くのスカウト達を集めてキャンプファイヤーをし、また、翌日その先生の勤める学校を見学し、そして盛大な歓迎を受け、感謝状をもらった。次に下町で買物をし彼らと別れた。

帰途

1 月 9 日、ホテルの一室で、フィリッピンにおいて最後の朝を迎えた。2 週間の交友、反省、民泊の家族の人達の暖かい思いやりをリュックにつめ、いよいよ帰国準備におわれ 9 時ホテルのみなさんに送られ、つきぬ名残りをおしみつゝ、空港に向う。出発時間より、2 時間ほどおくれ、機上の人となる。さすが東洋に誇るマニラ港上空からのながめは、すばらしい一言につきた。帰路の沖縄上空から見るサンゴ礁の海は、私の見たことのないすばらしい海であった。

こうして私は、すばらしい感動に満ちた 2 週間を過ごすことができた。そして今も異国の友からの便に、楽しくもありつらくもあつた 2 週間を思い出します。

信州・白馬ワラビ平・スキー訓練に思う

浜松地区コミッショナー 三輪 悦爾

2月9日午後7時過ぎ浜松を出発してから数時間たっただろうか。大町市に入るあたりから、そろそろ白いものが見え始めバスも、チェーンを巻く。

国界ドライブインもすごい雪が道路わきにかき寄せられておる。まだまだおどろく事はない。アルプスドライブインにても、浜松では見られない雪である。ここで可美1団のスカウト達と逢う。元気で滑って来いよ……。2〜3分の会話であつた。

夜の青木湖に、かがり火を炊いている人達がいた。おそらく釣を楽しんでいるのだろう。氷の上の魚釣り、想像しただけでも寒そうであるが、非常にきれいな夜景である。いつかは、氷の上で、さよりでも釣ろうと云う気持ちになる。

こちらあたりから、誠に見事な雪である。雪、雪、雪の風景、浜松あたりでは見ることが出来ない。

二階の窓まで雪が降り積り、雪の中にすっぽり埋っておるのが平家である。雪国の人達は、冬中どんな生活をしておるだろうか。非常に興味のわくところである。



為に相手をスキーで、ポコリとたたく事になる。

スキーを自分の足の如く使いこなす事は、おいそれと出来るものではない事を痛感をし、年期がいるものだ、と、しばし迷想にふける。

初心者コース

1回50円のこのリフトを利用し頂上めざしてゆく事はたやすい。至難なのは下りである。初心者コースがそうであるように非常に急斜面だ。何回か、ころび乍ら到着。この冒険がスカウトに取って楽しいようであつた。

幸いな事に、足を折らずにスキーを折った不幸中の幸なスカウト、運が良いと云うか、コロボ方がうまかったか？

想像するだけでヒヤリとする次第である。相当なスピードであつた事は云う迄もない。

もう一つ運の良いスカウトの話は、

新鮮な野菜はどうだろうか。味噌は、しょうゆは、みんな自家製だろうか？

道路の両側はうす高く雪がつもっている。雪かきの為に国道も三分の一ぐらいにせばめられ、細い田舎道に冬替りしている。

電柱も殆んど雪の為に頭だけ出しておる。どっこいしょとまたげば、またげる高さである。夜中など知らずに感電すれば大変な事である。

樹木と云う樹木は、みな綿帽子をかぶり、見事な一ぶうの絵である。

家の軒先には、つららがたれ下り、交叉点の信号機には、これ又つららがたれ下つておる風景は、雪国にしか見る事の出来ない風物詩とも云えよう。

新雪の中へころびおちれば、すぐにはい上る事の出来ないのが新雪である。まるで底なし沼の如くと云えようか？

これが信州白馬ワラビ平の一コマである。

ゲレンデがすぐそこ

宿からスキーをはき、ゲレンデへ。

まったく雪の為に都合が良く出来ている。初心者には、リフトの近辺で滑ってお



れば、結構一日中楽しく滑る事が出来る。

なまじ、スキーを肩にかついで、リフトの近くにゆくよりもその方がらくである。みんなが踏み歩いた後を通れば安全この上ない、新雪へ一歩ふみ込めば、ズボ、ズボ、ズボ……と冷汗をかく事は再三である。新雪の下は、小川が流れていたり、がけであつたりするからである。

指導員による講習も又楽し

直滑降、斜滑降、キックタン、なかなか指導員のようにゆかない。

うっかりキックターンでもすれば、自分のスキーにはさまれて、スッテンコロリンである。隣の人との間隔をとらない

新雪に滑り込み、はい上れなくなったスカウトである。もがけば、もがくほど、身体の均等がとれず、スキーも、ストックも、ズブ、ズブ、幸い親切な女の子に助けられて、ほう、ほう喜んで、話しをしてくれたスカウト。

おませなスカウトか？ いや当然なよろこびか？

八方尾根スキー場

ワラビ平からすぐそこに見える大きな山すそ、それが八方尾根スキー場である。小さな人影、アリのようにスロープ全体に滑っておる様子は、誠にオトギの国の小人の物語りの不思議な絵である。

しばし立たずんで眺めていてもけっしてあきる事を知らない。ましてや滑っておる本人にすれば、急なスロープに魅せられてこの上なく青春を謳歌しているのであろう。

挑戦に出かけたスカウト達、リフトに乗るにも40分程待たなければのれない混みようであつたとの事。

集合時間を気にして折返しUターンして帰って来たスカウト。

どうせここまで来たのだからと、リフトに乗り八方尾根スロープを上から滑ってきたスカウト、スカウター。

輸送がストップの為往復8kmをスキー靴でテクテク、雪中ハイクを楽しんだスカウト、スカウター大変ご苦勞様でした11時集合も大分おくれた。バスの出発

も予定時間より遅れたのも、渋滞した自動車の為か、集合がおくれた為か？

いずれにしてもこのスキー訓練は成功であつたと云えよう。

信州白馬ワラビ平は一日で言い尽せぬ沢山のハフニングが生んだ想い出となつてスカウト達の胸に刻まれよう。

あらためて感心する事ではないが、シニア達の冒険心の旺盛なものには、更に深く印象づけられたと共に、この年代だからこそ出来るものだと思ふと共に満足した次第である。

往路9時間帰路15時間の旅、楽しく無事に到着した事も、平野武、斎藤房太郎、古橋照久、中島繁光、堀内三男、瀬崎、村松の各リーダーがスカウトの安全のため、たゆまぬ努力とチームワークの賜であると感謝を申し上げ筆をおく。



優勝 浜松第18団チーム 浜松地区ソフトボール大会

1月27日(日)快晴 絶好のソフトボール大会日和である。
此処、自衛隊谷上グラウンドに、三々五々と集ってくる、各
ブロック代表チームならびに応援スカウト父兄。

今から開催されようとしている、昭和48年度(第2回目)浜
松地区ソフトボール大会決勝戦である。

竹村野営行事委員長自ら湯沸しの準備にかかっており、一方
原口氏寄贈による掲揚ポールを名倉氏のトラック上に設置し開
会式の準備にあわだだし午前10時前のグラウンド風景である。

まず第1回優勝チーム、18団から優勝杯の返還が竹村野営行
事委員長に手渡され、引続き三輪地区コミッショナーより、1
日楽しく、プレーをするようにと力強く開会の挨拶を受け、決
勝戦の火蓋が切って、おとされた。

各チームは、今年こそ優勝しようと張切っておる顔、顔、顔。
チーム応援のため、かけつけたスカウト父兄の応援合戦。二
面を使つてのなごやかな応援風景である。

父兄からのみかんの差入れ、それをたべずらの応援。もめ事
もなく至極愉快なゲーム風景であった。

ゲームの終了に近づく頃には、役員、リーダーが自主的にグ
ラウンドの空岳、くずものをきれいに片付ける風景も、ボーイ
スカウトの行事であるが故の善行であり、ほほえましい限りで
あった。めでたし めでたし、

成績 |優勝 浜松18団チーム(南部ブロック)
2位 浜松14団チーム(中央ブロック)
3位 引佐2団チーム(引佐ブロック)
4位 浜北2団チーム(浜北ブロック)
〃 浜松4団チーム(西部ブロック)

リーグ戦成績 1面 2面
1回戦 4(2)×18(14) 引佐2(4)×14(8)
2〃 4(5)×浜北2(20) 18(8)×引佐2(0)
3〃 14(4)×4(8) 18(7)×浜北2(0)
4〃 14(4)×浜北2(3) 4(0)×引佐2(10)
5〃 18(5)×14(8) 引佐(6)×浜北2(0)

⑤勝率同位18団、14団については打合せ通り選手9人による
ジャンケンにて18団優勝と決定()の中の数字は得点である。

昭和49年度登録状況

(49.4.1現在)

区分 団	団委 員	C		S		B		S		S		R	
		L	S	L	S	L	S	L	S	L	S	L	S
浜松1	6	13	39			2	33			1	13	1	9
4	6	9	36			4	40			2	8	SS兼	班6
6	9					5	21			1	班4		
7	9	11	22			3	24			1	8		
10	13	7	20			3	29	4	17	2	9		
11	8					3	13	3	14	2	12		
12	12	4	21			3	39			1	19	1	21
14	4					3	16			2	班6		
15	12	9	29			4	12	4	18	2	25	1	11
16	9	8	21			1	16	1	19	1	17	1	14
18	8					1	25	1	24	1	19	1	班5
19	8	11	34			3	40			1	8		
20	9	7	25	7	26	2	28	2	22	1	24		
21	8	8	22			3	20						
浜北1	11	9	15			4	21	3	14	2	13	1	班7
2	7	8	28			3	34						
3	8	4	14			3	23						
4	11	8	25			3	25					1	班4
引佐2	4					4	25						
細江1	10	11	24			2	23	2	20	1	15		
三ヶ日1	8					4	22			1	11		
可美1	5	9	31			3	21			1	班4		
計	185	136	406	7	26	66	550	20	148	23	215	7	77

団—22

隊—65隊

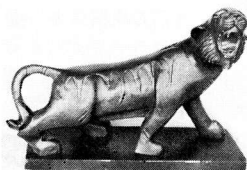
友 情

浜松第7団 加藤 升造

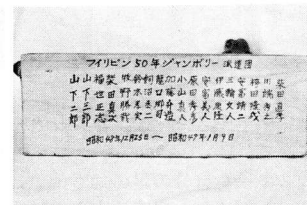
「キーン」。「ガシャー」と、音と共に、僕はヤットファイリ
リピンに着いた。

僕の目的は、これからどうやって2週間過ごすのか。という
ことと、日本人であるということ、フルに使って友情を深め
ていくことである。と間もなくフィリピンスカウトが出迎えて
くれた。あの時に歌ったうたが、心の中から、わき出てく
るようだ。そしてフィリピンホテルに2泊して、まず、観光
と住民の生活である。僕は、そのみずばらしさにおどろきと、
いきどろきを感じた。なんと、全体の95%の富をたったの5%
の人でわけあい5%の富を95%の人がわけあっているというの
だ。しかも、その生活は、まず見てはいられないものだ。頭
のおく底に刻みこまれているようだ。写真で見た終戦直後の生活
の様だ。水牛を使って田畑を耕している姿は、まるで、生きる
道をなくした人の様に見えた。

又、ホテルから1歩でも出ると、ガムを6才ぐらいの子が売
り歩いていて、物を買ってくれないと「お金をちょうだい」と
言ってお金をつけてくる。町で印象にのこったのは、これだけ。
あとは、ジャンボリー会場で僕にも友達が出来た。国際スカウ
トと、フィリピン第29団のトランペット隊の隊と仲のよい友に
なった。交かんというより、たくさん物をあげてきた。1月1
日に朝1時から浜松祭をして、客を喜ばせた。するといつの
まにか、他のスカウトも入ってきてその列は100人といってい
ような、列をつくって会場を走りまわった。汗だくで、
次の日は声も出なかったが、これほど楽しくやったことはなか
った。が、このようなジャンボリーでも、日本隊や、その他の
隊からもマラリヤや赤りにかかって急救車で運ばれていったよ
うだ。でも皆んな心をひきしめてやったあの1週間。共に夜お
そくまで、語りあったこと、共に交かんしあったこと、共にわ
かれをおしんだこと。もうあのようなことには会えない。
僕にとっては一期一合だと思った。でも思い出はいつまでも、
年月がたてば、たつほど深いものになる。もうあの感動も、感
激も、いまた静けさとなってかえってこないが、一度結ばれた
友情は、なによりも強い。友情……それは、たんなる友ではな
く人間としての情を知り合い、言葉なんか、そこにはなくても
いい。その物事を受ける心さえあれば、友情。僕にとってフィ
リピンジャンボリーに行つてほんとうによかったと思うこと、
それは友情であった。



記念品の置物



置物の下に記名(地区に保管)

フィリピン50年ジャンボリー参加報告

12月24日 浜松駅 15時24分発 B S 浜松10団 山下 二郎
東京駅 18時30分着
19時 オリピック記念青少年総合センター、渡航手続、諸注意
12月25日 荷物点検、計量、積込み、明治神宮参拝
16時55分 羽田発 NW007
12月26日 0時30分 マニラ市内見物 タガイタイ サンチャゴ ヨウサイ
12月27日 キャンプイン 設置
12月28日 開会式 バグサーフアン川のぼり
ジャンボリー コレビドール島
閉会式 撤営、フィリピン大学体育館、泊り
1月4日 海水浴
1月5日 リサル周辺
1月6日 帰国準備
1月7日 民泊
1月8日 マニラ発 12時 NW006 東京着 7時 解団式
1月10日 午前0時 浜松着 午前4時15分頃
フィリピンジャンボリー派遣団(浜松地区) スカウト
山下二郎 10団 日本連盟、施設、備品 牧野勝哉 7団 班長 原田秀彦 18団 班長
山下二郎 10団 日本連盟、施設、備品 鈴木孝夫 1団 次長 安富義人 14団 次長
福世正志 18団 第6隊副長(東海隊) 柴田直孝 1団 川端秀之 12団
柴田真次 10団 第5隊副長補(静岡隊) 飼沼至二 4団 伊藤康隆 12団
竜口郷司 4団 三輪文人 12団
加藤升造 7団 安富靖二 14団
小山真人 1団 梶田隆成 20団
リーダー4名 スカウト14名 計18名

カブ隊冬期ちびっ子オリンピックに参加して

細江第1団カブスカウト母
井ノ口妙子

去る2月9、10、11日カブ冬期オリンピックと題して、場所を茅野市郊外白樺湖に於いて浜松12団、細江、飯田、茅野のそれぞれ各1団との4ヶ団合同大交歓会が催された。

9日、予定時間1時にスカウト、父兄は教育長に見送られながら清水インターより一路身延沿いに相又峡で浜松12団と合流、ふと見ると山峡に見える山並みは一面雪景色に映えている。片道320kmの走行は大変なものである。峠崎、手前より雪や漏水で路面が凍りつき慎重な車の運転が必要とされ、軒並みの屋根から下がるつららも見事な氷の芸術をみせている。北日本はすっかり深い雪に覆われ、今冬で最も厳しき寒さとニュースは流している。春をお遠い感であるこの雪を見てはつくづく思う。

茅野市バイパス手前から宮坂御夫妻を先導とする車の前後に闇夜の大門街道は車のライトがえんえんと長蛇の如くつながり、夜の9時、10時の腹の虫はか細くにして治まらず。予定時間3時間オーバーの11時前、白樺湖着。正に白銀の世界のものである。宿舎の各入り口には横幕にカブスカウト大歓迎の大口文に、乗る物々々の心が解きほぐれる。カブスカウト、父兄は湖畔をはさんでそれぞれユースホステル、晴明荘にと分かれ冬山宿泊の人となる。湯気の立つ白樺鍋に舌づつまながら対岸にいることも遠くはどうだろうかとはや、気はそぞろ。

2月10日、開会式。場所は白樺湖上。準備時間中、浜松、細江はボブスレー、わかざぎの穴釣りに興じ、式場には早くも茅野1団、続いて飯田1団が到着する。にわかに国際色を思わせる開会式が催され、周りには隊旗、市旗が並び入場行進

のマーチに合わせ各団が2国づつのそれぞれの衣裳を身にまとい、ギリシャを先頭に8カ国が入場。数十発の花火と、ともにアツ、と言う間の聖火ランナーの入場、スケートリンクを一周し高々と聖火台に灯すこの火種も、はるばる細江町長から岡田団委員の背に懐炉を通じて運び継がれたもの。国旗掲揚、大会長、主催国市長の挨拶に始まり、ブランディジ会長のたどたどしい日本語、天皇に扮する宮沢隊長の似声、思わず吹き出してしまふ。開会宣言、選手宣誓にて開幕。午後より今日のハイライト、氷上競技(100m走、かじなしペアー)雪上競技(ボブスレー、複合ボブスレー)が行なわれる。寒さに慣れない暖国のスカウト達も、競技ともなれば寒さも忘れ大ハッスル。そして場所は変わりユースホステルにて各隊の友情交換の出し物、名刺交換と友情を深めるに効果的な催しが数々行なわれ、5時過ぎには飯田1団の名残りはつきぬお別れの場となる。こうした1日を通して主権者側としての、きめ細かな配慮に私達父兄は本当に頭の下がる思いです。後、スカウトはユースホステル館内のプログラムにしたがい、父兄は晴明荘にて浜松、茅野、細江との懇親会あり、席上茅野で用意された見事な漬物の種類には、ほんとにこの地ならではの生活から出た知恵と感心する。

11日、昨夜からの断続的な降りに積雪40センチにもなろうという。外気温下10度、20度の白樺湖上は昨日と変わり山から雪を誘い吹く風も烈しく、スカウト達は容易でない寒さにもめげず、茅野で用意されたスケート靴に、はや立つ事によるめきながらの大奮闘、続いて八子ヶ峰スキー場にて慣れないスキーを付けて走

り出す「僕、死んじゃうようー」と大声をあげるスカウトの後を追いかける父兄も容易ではない。半日の間に場所も広く北から南、南から北へと移り変わりユースホステルにて餅つき大会。外館に丸まった餅がテーブルの上に見事に並び、二百余名の口は瞬く間に平らげてしまう。続いて閉会式が行なわれ、成績発表。総合表彰では数少ない我がチーム、ガーナーが優位、続いてメキシコと細河が占め表彰を受けるスカウトの顔は嬉しさにほころぶ。思えば細江では過去3年間こうした計画を夢に描きあた、めて来た日、思わず目がしらがあつくなる。総ての行事も皆一様に真剣に各団と力を合わせ成功できた事に喜びを感じ、改めて、カブボーイスカウトとしての将来を託する青少年団体の活動が個々の人間作りの場となっている事に気付き、物不足、エネルギー危機と云えども、まだまだ物質的には恵まれ過ぎている現状だけにこうした学校、家庭にない野性味を導入するよいチャンスと云える。精神的他人関係にありがちな今日では、こうした活動により話し合いの場、信頼関係の媒体としての利用価値も高い。我が隊長の「指導者としての仕事はいつまでも終ることのないものである」と云う言葉に、この春ボーイに上進していくスカウトの母親として「溜る水は腐る」と失言した我が身を恥じ、あまりにも受け身の考え方で、してきた事が恥ずかしく家庭いや、人間としてのいろいろな角度からお互いにそういう気持ちの余裕を持つべく私はこの先ずっと努力をしなければ……と。「立つ鳥、あとをにごさず」一つの区切りとして上進していくこともと共にきれいに飛び立ちたいと思う。

~~~~~ スキー訓練に参加して ~~~~~

浜松19団 野中 智

BS19団カブ隊 小野 雅志

ぼくは2月9日から11日、ボーイのスキー訓練に初めて参加した。白樺高原は思っていたほど寒くなかった。スキーは長いし、くつは大きくて重いので、すべれるかな、と思い、心配だったが案外よくすべれたので、うれしくなった。まず直ぐころをやってみた。ころぶんじゃないかな、と思っていたわりにころばなかったので安心した。だが、減速のし方とブレーキのかけ方がわからない。1回やるたびに、まだ固まっている雪の中にめりこんでいく。イヤだなあと思い先生にいろいろ教えてもらった。スキーの後ろをひろげる。するとおもしろいほどよく止まる。これをブルークと言うのだそうだ。次はカーブだ。このことをブルークボーゲンと言うのだそうだ。ブルークと同じようなことをして曲がるので、そう言うのだと言う。最初はうまく曲がれなかったが、先生の言うとおりにしていると、うまく曲がれるようになった。これで、もう一つ覚えたなと思った。次の日の最後にロープトウの上の所まで行って、すべった。登るのに大変だった。先生はいいなと思った。スイスイと登っていく。早くそうなりたかった。ちょう上についてみると下の方の人がとても小さく見えた。先生の後ろから、ブルークボーゲンをしながら、おりてきた。右へ曲りたいのに左へまがってしまうようなときもあった。でも楽しかった。つかれたけど、とても楽しかった。来年も行きたいと思う。

ぼくの生れたのは四国の高知だった。幼稚園の時は雪のふるところで、アパートの屋上で、雪だるまをつくったりした。小学一年からは、浜松でぜんぜん雪が降らないので、つまらないと思った。スキーに行くことにきまったとき、ぼくは、うれしかった。ホテルについた時は11時すぎだった。一夜明けると純白の世界だった。つららも、たくさんあって長いのは5メートルぐらいあった。いよいよ、訓練が始まった。最初は歩きかただった。スキーはぼくのせより長いし、くつも重いので人の足のようだった。上からすべってくるとスピードが出て、雪のふきだまりにつっこんだ。ぼくはさいこうにしあわせだった。なんともなんともとびこんだ、しまいいには雪だるまになった。よるは宿題をしてねた。2日目もよい天気だった。すべったりころんだりしているうちに、もう帰る時間になった。ぼくはまだ、帰りたくなかった。母は「あそぶのはいいけど、雪の中で生活するのは大変だよ」といったがぼくには、まだわからない。

雪よ、さようなら たのしいスキー訓練だったなり。

浜松7団ハイキング報告

BS浜松7団 坪井 愛三

4月28日 晴

7団はガール・スカウト静岡第16団と合同ハイキングを、都築の旧姫街道駒場口より出発し、尉ヶ峰を登り、細江公園「国民宿舎」前まで16Kのハイキングコースで行いました。

ボーイ隊26名、カブ隊34名、父兄25名、団委員5名、ガール、ブラウニー隊、ジュニア隊、シニア隊、父兄を合せ40名、計、大橋団委員長以下130名（貸切バス2台 自家用5台使用）

ボーイ隊、ガール、シニア隊、カブ、デンマザーは、出発点から追跡ハイキングを実施しボーイ1班を先頭に、5分間隔に地図と記録帳をあてえ出発させました。



駒場口を出発するデンマザー第1チーム

駒場口——尉ヶ峰 8Kコースです。出発順は1.ボーイ1班（7名）。2.ガール、シニア1班（8名）。3.デンマザー第1チーム（8名）。4.デンマザー第2チーム（8名）。5.ボーイ2班（7名）。6.ボーイ3班（7名）の6チーム。各班ごとの記録帳には、出発時間、到着時間、人員を、宿題として……

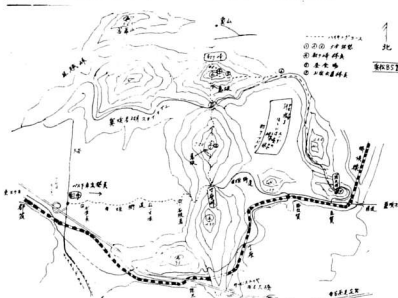
1.水準点（拓本）2.一里塚（拓本）3.石投岩（リーダーが負傷者になり急救法実施させる）4.植物30種以上の記入5.寸座峠通過連絡せよ6.三角点7.俳句1人1首8.スカイライン通過報告（団委員2名待機）9.尉ヶ峰山上完走タイム10.パノラマ制作（各班ごと）



一里塚にて拓本を取るカブ隊1組スカウト

班	種目	水準点	一里塚	植物	完走タイム	合計点	順位
1班	BS1班	6	3	3	3	15	3
2班	ガール	5	4	5	3	17	1
3班	DM 第1チーム	1	1	4	1	7	6
4班	DM 第2チーム	3	6	6	2	17	2
5班	BS2班	2	5	2	4	13	4
6班	BS3班	4	2	1	5	12	5
備考		出発から尉ヶ峰までの間、三角点の高さを記入せよ					

追跡ハイキング採点表

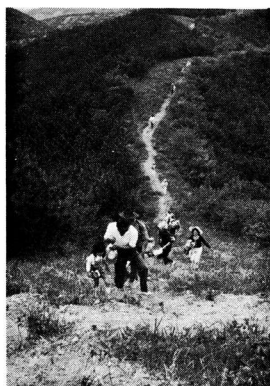


完走タイムはさすがボーイ・スカウトで1時間45分、ガール2時間、デンマザー2時間30分。でも拓本、植物名等は女性チームが強く、先を急ぎ過ぎた1班は三角点の高さを忘れ、最高点から3位に転落、同点の2班と4班は平均点の良いガール・チームが優賞と決定、岡本団長より記念品を贈られる。

カブ隊、ブラウニー隊、ジュニア隊はリーダーの指導の下1人の落伍者もなく2時間20分無事尉ヶ峰山上に到着する。

カブ、ブラウニーは両親と共に弁当にゲームに、カブは風揚げ戦、ボーイはロープ訓練、ガールは踊りに約1時間30分を過ごす。

2時山上をブラウニーを先頭に出発する。



山又山で後には続くはお母さん達だけ



追跡ハイキング総合点優賞のガールチームに記念品贈呈

下り8Kは休みなく3時50分細江公園着バスにて帰着する。

「俳句」
坂道で マムシに出あい 大あわて
(ボーイ、1班、和田)
くたびれたハイキングでね たくたただ
(ガールスカウトチーム)
五月晴れ 野辺のわらびに 目を細め
(デンマザー第1チーム)
ハイキング 久方振りに 若返り
(カブ 第1チーム)



カブ隊記念写真

ふり向けば 眼下にトビの 舞う峠
(カブ 第2チーム)
汗流る ほ、に寸座の 峠風
(ボーイ隊、坪井)
出発 和地山清水銀行前9時～都築駒場口着9時50分
帰発 気賀細江公園16時～和地山着16時40分
(写真、カブ隊永田隊長)

竜頭山登山

可美第1団少年隊 太田 博之

1352m、この高い山を登ったぼく。

その山は、竜頭山。

3月30日にぼくたちのとまった所は、西渡の山香公民館。そこから竜頭山登山口まで4K以上もある。

竜頭山入口まで歩いたらもう疲れてしまった。登山道は舗装道路の端の石段を登って、沢づたいにくねくね曲った急な山道を、あえぎながら登って行った。公民館を出発した時は、寒くてふるえたが、今は暑くて汗びっしょり。

山道を歩いていると、木の間から山の頂が見えたので、竜頭山かと思ったら、あの山のむこうで、まだ見えないといわれて、がっかりした。道の横に雪があったので、なめたり、顔につけたりして歩いた。途中から、だんだん3つのグループにわかれてしまった。

早く歩く人は、先に行き見えなくなり

遅く歩く人は、後ろの方になってしまった。ぼくは途中で波多野君といっしょに登った。

10分おきにトランシーバーで、前と中間と後が連絡しながら、20cmもつもった雪の中を歩いて、ようやく頂上に着いた。おなかがベコベコですぐ弁当を食べた。頂上にいる時間は、たったの30分。その間にいろんなことをしなければいけなかった。とっても冷くて死ぬほど寒かった。登る前、みんな寒くなるぞと言っていたが、こんなに寒いとは想像出来なかった。山をおりる時は、割合らくだったが、2回すべって転んでしまった。

朝8時45分からずっと歩いたのは今回が初めてだ。今考えると不思議に思える。こんなに長い時間歩けるのだと云う自信がついた。

山を登っているときは苦しくて、もう絶対山へは来ないと思ったが、今はちがう。苦しくても登ったのだから、うれしい。是非もう一度山登りに挑戦したい。

浜松まつり駐車場の奉仕報告

浜松第10団 後藤 守利



駐仕本部前にて

5月のゴールデンウィークに例年催される「浜松まつり」も、本年は3日間とも好天にめぐまれ、160万人の入出で全国第3位を記録したと新聞でも報じています。特に「風揚げ」は全国的にも有名で「浜松まつり」の中心をなすものであり会場には延 100万人近い入出があったものと思われます。

私達ボーイスカウト浜松地区でも野営行事委員会を中心として、浜松まつり本部の依頼で「風揚げ会場」駐車場の整理運営に協力し、皆様方のご奉仕により無事終了することができました。

以下その経緯と感じたことを記してみました。

この駐車場奉仕も本年で6回目となりましたが、最初は昭和44年で以後毎年のごとく奉仕して、その経験と信頼は定着しております。当時の経緯は昭和44年3月に浜松まつり本部から

地区委員長へ協力方の依頼があり、地区委員会において協議した結果、明年・明後年と連続して第5回日本ジャンボリー・第13回世界ジャンボリーが、本県の朝霧高原で開催される折から、その交通整理の経験を得ることを併せ、ボーイスカウトのPR及び地元行事への奉仕という点に注目して、申出を受理した記憶であります。

年々の経験を踏まえて、奉仕の方法や準備も手慣れてきております。又、駐車場内の区画や進入路・運営方法・通信手段などの改善整備も、市において毎年のように行なわれておりますが、自動車の増加に対処できない現状であります。特に会場・駐車場とも中田島公園内のため制限があり、附近の松林は保安林に指定されている関係上、会場等の拡張や進入路の新設は不可能な状況であります。

本年の特筆すべきことは、昨年からのエネルギー危機から「マイカー自粛」を期待して、バスやタクシーの専用道路を設け公共輸送機関を優先させるよう、まつり本部と警察において配慮し交通規制を行った点であります。

この試みは成功し、浜松駅南口から約20分程度で会場に到着し（従来の2分の



交通整理するスカウト

1以下) 遠来のお客さんにも喜ばれた模様で、貸切バス以外のバス利用者も例年より多い約5万3千人以上だったと聞きました。しかしながらタクシーの乗降場について、一部連絡不十分な点がみられトラブルがあったことは残念であった。来年度はこの点を反省し改善するよう申入りたいと思っております。

スカウト関係では、本年は特に各団とも団委員の方々の奉仕が多く、浜松地区の各団における日常のスカウティングに対する成人の方々の協力が、望ましい姿になっていることの発露でもあり感謝にたえないところであります。

また、通信手段としては昨年浜松ライオンズ・浜松4ロータリーの各クラブから寄贈を受けた無線通信機を含め、例年の3倍以上である7台を使用し場内はもちろん、場外の主要地点3カ所にも配置し円滑な運営に協力したことは、ボーイスカウト浜松地区アマチュア無線クラブの目的の一つでもある非常時等の通信訓練にも役立ったことと思っております。

なお、浜松まつり本部からいただいたお礼は、地区予算に寄附金として計上し地区行事の経費に支出されますのでご報告いたします。

最後になりましたが、ご奉仕いただいた方々に紙上をお借りして厚くお礼申し上げます。

各団の奉仕人員は次のとおりであります。
3日90名、4日58名、5日76名、計224名。

こどもの日に思ったこと

浜北第3団委員長 山下 総太郎

5月5日「こどもの日」日本中では、どこも、こども人の波だが、それぞれの人には、思い思いの計画で楽しいレジャーをした。私は、この日茶摘み(tea picking)をした。茶畑で近くをながめると、樹々の緑は明るく薫風に鯉のぼりが泳ぐさまは5月は男の子のお祝いだと思った。

現代は、激動の時代であります。私たち子供をもつ親である大人にとっても目まぐるしく揺れ動く社会だとはいえ、伸びゆく子どもたちが健やかに生まれ、かつ育成されなければならない。そこで、スカウト(boy scouts)関係者の皆さん、これからの教育こそ、家庭、学校、社会の三者が互いに協力し合うことがもっとも大切な基本だと考えます。次代を背負う子どもたちの為に、まず健全な子どもを育てようではありませんか。と私は声を大にして叫びたいのであります。今回は、最近の二つのニュースを話題提供します。

〈その1〉この様子は、テレビで知ったのですが、30年前の上官命令を守り続け低いかん木が生い茂り、刃物のような切り立った絶壁の、しかも岩場が散在するルバング島の奥深いジャングル。ここを隠れの都にして、29年間という長い年月青春を孤島で洞くつ生活をした小野田寛郎元陸軍少尉に救出のためたぬニュースです。

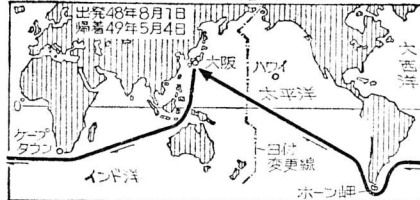
幸いにして、海外旅行をするのが趣味の青年に出合ったことです。その人は千葉県市原市の鈴木紀夫さん(24才)でした。

小野田さんのジャングルの生活とは、炊事用具は、軍隊の水筒や、捜索隊が残

していったナベやカマを使い食事は、バナナやヤシの実、エビ、牛肉のくんせい等も食べていたようです。そして食事はいつも温め「生水は暖かいものは避けて深い所にある冷たい水を飲むことを心がけていたようです。つけ加えたいことは比島軍は「第1級の日本軍人」と称賛した。更には、マルコス大統領も立派な軍人魂だとほめたと伝えられていることです。

〈その2〉◎無寄港世界1周を果たした今の感想は。世界は小さくなったと言われるが、世界1周の航海で地球は大きく円いものだという実感を得た。◎これからの生活は。

『マーメイド三世号』の航跡



どこか片すみで細々と暮らしていきたい。

◎今一番したいことは。風呂に入りた。この一問一答は、5月4日小型ヨット「マーメイド三世」で単独無寄港世界一周5万キロの航海を終えた。大阪市住吉区粉浜本町の堀江謙一さん(35才)です。単独無寄港世界一周は、日本人として初めてで、世界でも三人目といわれています。また堀江さんの航海日数は、276日です。しかも、早回りの世界新記録でした。以上は、私たちが青少年問題を考えるヒントにはいかがですか。

最後に①社会教育活動のための指導者の養成と地域社会の協力を充実させたい②青年層を中心とした、ボランティア(社会奉仕)活動を活発にしたい。③子どもを進んで少年団体に加入させ、団体活動を体験させると共に、私たち親も、もちろん進んでボランティアとして指導にあたろう。この三点に本年は力を入れてはどうでしょうか。皆さん、子どもたちをそれぞれの個性に応じた発達を支え伸ばすことが必要でありましょう。今の子どもにとって、個性を伸ばし、更には、団体生活の中で、創造性を養い、友人をつくる機会(opportunity)として遊びでもまた、新しい若い芽が育つことでありましょう。



渋川に鍛えられる新班長101名

第9期浜松地区班長訓練野営

浜松地区の恒例行事となった班長訓練野営も3月21日より24日までの4日間、渋川川宇連の野営場に於て実施された。

内田時世野営本部長以下野営本部と各団野営行事委員の奉仕隊と三輪野営長、平野、杉山副野営長、名倉、外山、八木本、井ノ口各隊長をはじめとした教育担当の奉仕者に依って充実された訓練が行われ101名の終了者を出すことが出来た。

その終了者名簿は別表の通りである。

(終了者名簿は次頁)

浜松地区班長訓練野営修了者

(鳥 隊)

通し番号	所属団	級	氏 名
1	浜松1	2	尾島 恒夫
2	〃 6	2	山下 徹久
3	〃 7	2	中村 英行
4	〃 11	2	小林 利幸
5	〃 11	2	西尾 和章
6	〃 15	2	飯田 智司
7	〃 15	2	堤崎 正人
8	浜松1	2	鈴木 康弘
9	〃 6	2	山本 典和
10	〃 7	2	長谷 明治
11	〃 11	2	富田 真司
12	〃 11	2	山田 俊秋
13	〃 15	2	藤田 浩志
14	〃 15	2	堀 内 史
15	浜松1	2	柴田 直宏
16	〃 1	2	酒井 史則
17	〃 6	2	平田 康之
18	〃 7	2	青 木 晋
19	〃 11	2	中村 和久
20	〃 11	2	袴田 公史
21	〃 15	2	松井 利浩
22	浜松1	2	吉沢 正幸
23	〃 6	2	増 井 久
24	〃 7	2	山本 幹夫
25	〃 11	2	平田 浩二
26	〃 11	2	大石 浩久
27	〃 15	2	山田 通宏

(けもの隊)

通し番号	所属団	級	氏 名
28	浜松21	2	内山 英夫
29	引佐2	2	佐 野 治
30	浜北4	初	平戸 信義
31	〃 1	2	伊藤 篤彦
32	〃 4	初	中 村 豊
33	〃 3	初	松下 健次
34	浜松21	2	木村 文彦
35	引佐2	2	影山 秀樹
36	浜松21	2	内山 佳紀
37	浜北4	初	市川 隆弘
38	〃 1	2	花崎 裕士
39	〃 3	初	沢木 和雄
40	〃 1	2	宮下 研一
41	浜松21	2	大城 徳彦
42	〃 21	2	山 下 茂
43	引佐2	2	安間 則和
44	〃 2	2	藤田 正好
45	浜北4	初	鈴 木 浩
46	〃 1	2	池谷 政則
47	〃 1	2	河野 久教

(富 士 隊)

通し番号	所属団	級	氏 名
48	浜松4	2	村松 秀隆
49	〃 12	2	袴田 哲司
50	〃 12	2	薩 川 敏
51	〃 16	初	藤田 哲也
52	〃 16	初	石井 正章
53	〃 19	2	小池 一央
54	〃 19	2	渥美 貴久
55	浜松4	2	松井 佳茂
56	〃 4	2	小池 康夫
57	〃 12	2	白尾 成史
58	〃 12	2	喜田 真司
59	〃 16	初	赤 堀 勇
60	〃 16	初	佐々 雅之
61	浜松14	2	本多 良行
62	〃 14	2	高橋 典久
63	〃 14	2	鈴木 智明
64	〃 12	2	杉浦 拓生
65	〃 12	2	長谷川 剛
66	〃 12	2	山梨 勝教
67	〃 19	2	八木本 英之
68	〃 19	2	柴田 哲宏

(宇 宙 隊)

通し番号	所属団	級	氏 名
69	浜松20	2	飯田 剛久
70	〃 20	2	原田 久仁一
71	可美1	2	稲垣 英樹
72	細江1	2	村上 正美
73	浜松10	2	天 野 享
74	〃 10	1	那須田 馨
75	〃 18	2	村 松 正
76	〃 18	2	清水 貴義
77	〃 20	2	池谷 智晴
78	可美1	2	高橋 秀直
79	細江1	2	池田 公俊
80	浜松10	2	寺田 浩之
81	〃 18	初	村松 永二

82	浜松18	初	柳沢 滋晃
83	〃 20	2	三好 貞男
84	細江1	2	名倉 幸夫
85	浜松10	2	小野田 光利
86	〃 10	1	加藤 重威
87	〃 18	2	伊能 敬通
88	〃 20	2	滝本 俊浩
89	〃 20	2	土屋 明義
90	可美1	2	中村 和広
91	細江1	2	井ノ口 章博
92	〃 1	2	鈴木 公三
93	浜松10	1	村松 毅一
94	〃 18	初	高柳 力也
95	浜松20	2	原田 猛一
96	〃 20	2	大野 真志
97	細江1	2	青山 勤也
98	〃 1	2	内山 茂樹
99	浜松10	2	鈴木 雅也
100	〃 18	初	山下 益司
101	〃 18	初	福田 知弘

う ご き

- 1月6日 地区内コミ関係者会議 法林寺
- 9日 第50周年記念ファイリピン・ジャンボリー帰国 18名 (L4 S14)
- 12日 地区コミ、事務長会議 静岡市魚磯
- 15日 浜北1団新年会 ホテル白山(三輪)
- 21日 地区ソフトボール決勝戦主将会議 法林寺(ルールについて)
- 26日 浜松第15団新年会 馬込公民館(三輪)
- 27日 地区ソフトボール決勝戦(自衛隊グラウンド谷上)優勝・18団BS隊、2位・14団BS隊3位・引佐2団BS隊、4位浜北2団・浜松4団BS隊
- 13日 浜松12団新年会 青少年広場
- 2月2日 地区コミ会議 静岡(三輪)
- 3日 班長訓練野営地 渋川下見(竹村、三輪、中島、杉山、川瀬)
- 3日 地区内コミ関係者会議 法林寺(団委員研修会、班長訓練野営について)
- 5日 西部ブロックリーダー会議(富塚幼稚園)
- 7日 団委員研修会本部員打合会 法林寺
- 9~11日 スキー訓練 シニア・八方尾根白馬スキー場
- 〃 2泊3日 ボーイ・白樺スキー場
- 13日 地区指導者養成講習会 法林寺(団委員研修会等について)
- 14日 県連財政委員会 県民会館(金森)
- 16~17日 団委員研修会 浜北林業青年の家 47名参加 1泊2日
- 19日 地区名誉会議 地区委員長宅表彰等について(内田、三輪牧野、柴田)
- 21日 地区進歩委員会 法林寺 進歩制度について
- 23日 地区全体リーダー研修会 法林寺
- 〃 県連総会 県民会館4階7号
- 24日 B-P祭各ブロック毎実施 中央一東小、南部一浅間小、西部一佐鳴湖公園、引佐一気賀小、浜北一各隊
- 25日 カブ講習会本部員打合 法林寺
- 26日 21団々委員長(牧野氏)葬儀
- 3月2日~3日 カブ講習会 市青少年の家 宮沢、柴田
- 2日 地区コミ会議 県民会議7号

- 5日 班長訓練野営本部員打合 法林寺
- 6日 登録事務打合会 法林寺 登録事務、緑の羽根募金について
- 8日 地区野営行事委員会 法林寺 班長訓練野営について
- 9日 班長訓練野営地下見及び申請 渋川、森林組合、田沢、久留米木小学校 引佐教育委員会挨拶
- 11日 班長訓練野営本部員会議 法林寺



倉庫受渡式(記事は前号参照)

原 稿 募 集
第56号原稿を募集

暑中見舞広告も御協力下さい
原稿メ切 S49年7月10日
発行予定 〃 8月上旬

あ と が き

- 地区総会が終ると、目に映るものすべて新緑、ゴールデンウィーク、風揚げまつりとつづき、本年は特に好天に恵まれ、その人手も全国的にみても第3位と聞く。子供の頃を思い起すと練兵場即ち今の和地山公園グラウンドで風を揚げ、底抜け屋台の上に風をのせて帰った頃の規模と比較し隔世の感を深くする。
- 例年新年度最初の号はどうしても地区総会の資料が主となる。これも皆さんに地区の運営に御理解を願うためのものであるからよりしく御活用願いたい。
- 内田委員長より「スカウトの基本動作礼式の基準」を連載し、節度ありてスマートなスカウト像をつくり上げることがを要請され資料も頂いたが紙面の都合で次号からにさせて頂くこととした。
- 値上げしてもよいから内容を縮小させるなどという大勢の御意見に編輯者一同意を強うして取り組むつもりである。(T S生)

発 行 所

第55号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所
浜松市利町70-4 児童会館内
TEL 54-0178
編集発行責任者 杉山友男
昭和49年6月10日発行